

地有ば竹を可植、屋敷の西北吉、東北もよし、南には不可、植南を開き、北を閉ば夏すゝしく、冬に暖に、菓樹能實結、万事によろし、疫病等を不入と云、木は六月暗の内に不伐、竹は八月、是も暗の内に吉、俗に木六月竹八月と云ふ性合格別違ふ、伐時悪き竹木共虫入別て、竹は八月暗に不伐ば虫入に成、沿川筋などに葭を植るは若生壹尺許り、根一節づ、かけて可伐、指て能付なり、總て菜菓草木凡て民用を助る品々種を求め、其法に隨ひ作之、不用の地なき様に心掛べし、四壁まばら竹木少く家居みへ透く様成村方は、村役人百姓共心掛薄く見故、自ら貧困とみ得る、若し空地あらば雜木等を植置用、水川除普請等の用木の多足とすべし、又土目惡敷烟地何程も養入ても種丈も不取、或は山里の間遠き處之烟、惡地の上には猪鹿之防届兼年々荒地に成地所は、杉桃等を植、又は荻畑、萱畑或は檜柏林等、地相應之物を仕立て、年貢輕く可申付、地味を考へ右の類を仕立、山野に無益の費無之様に致すべし。

(續日本紀三文武)慶雲三年三月丁巳、詔曰、○中頃者王公諸臣多占山澤不事耕種、○中略自今以後不得更然、但氏氏祖墓及百姓宅邊栽樹爲林、并周二三十許步不在禁限、

〔類聚三代格十六〕太政官符

寺并王臣百姓山野藪澤濱島盡收入公事

右被右大臣宣稱奉勅准令山川藪澤、公私共利、所以至有占點先頻禁斷、如聞寺并王臣家及豪民等不憚憲法、獨貪利潤、廣包山野、兼及藪澤、禁制芻樵、奪取鎌斧、慢法蠹民、莫過斯甚、自今以後、○中墾田地者、未開之間、所有草木、亦令共採、但元來相傳、加功成林、非民要地者、量主貴賤五町以下、作差許之、

○中略
延暦十七年十二月八日○中

太政官符